

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

大陽俳句会

稲架の波消へし里田は音もなし

鍋山 美智子

揺れぬよふそつとそうつと零余子取り

岩重 みどり

豊作へ巻狩姿矢を放つ

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

晩秋の光を返す耳川に

水鳥憩ふ旅の終はりに

長倉 佳津子

三日月と金星煌めく夕の空

寄り添ふやさしさ忘れて久し

森岡 ちどり

梅一輪咲き初めしこと伝へたくて

君の遺影にしばし対ひぬ

宝蔵 弘二

大陽短歌会

能うこと少なくなりゆく老いの日の

へアドネの髪労り濯ぐ

広川 ミドリ

悔いのなき今日のひと日をまとめ書く

飼料の名前も日記に残す

安藤 フヂ子

里芋の煮べとなますの小正月

みやげのマックも肩を並べる

竹内 娃子

財部短歌会

いつの間に「国家百年の計」しほみしか

打ち上げた花火見えず聞こえず

児玉 次雄

にぎやかな隣人去りて灯り消え

叫びたくなる冴へし月の夜

永岡 冴子

けふもまた暑さ厳しい昼下がり

かさかさ柿の葉冬はすぐそこ

杉村 リカ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

遅り女房 歳暮時期じゃがち

尻叩つ

孫んこん

涙流げつ

歳暮が着つ

ご馳走なつ

家族揃し笑顔で

届じた歳暮

年令けなつ

持ちやならんごつ

歳暮が届け

け濟せつ

御礼は郷里味

遅り女房

尻叩つ

孫んこん

涙流げつ

歳暮が着つ

ご馳走なつ

届じた歳暮

年令けなつ

持ちやならんごつ

山中 ミツどん

高瀬 夜舟

浜田 一好

桐野 奈世

西留 辰子

大晦日に産んだ

胡摩ヶ野 べぶまつ